

令和6年度 第1回 よこはま多世代・地域交流型住宅整備・運営事業者選定等委員会	会議録
日 時	令和6年6月26日(水) 14時00分～15時10分
開催場所	ココファン横浜鶴見 1階 地域交流スペース「小会議室」
出席者	大原委員、和委員、佐藤委員、関委員、中村委員
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者なし)
議題	1 委員長の選出について 2 令和6年度委員会の予定 3 その他

議事要旨	
	<p>1 委員長の選出について 委員の互選により、和委員を委員長に選出</p>
事務局	<p>2 令和6年度委員会の予定 資料に基づき、「条例第2条のよこはま多世代・地域交流型住宅の検証及び評価を行うため、既存多世代住宅の事業者に対し、事業実施状況の自己診断(セルフチェック)を求めると」と「よこはまポジティブエイジング計画の『よこはま多世代・地域交流型住宅の供給促進』に向けて、行政に求める支援策等についてのアンケートをあわせて行うこと」を説明</p> <p>(主な意見等)</p>
関委員	<p>民有地活用型を促進するには、既存多世代住宅以外の開発事業者等への聞き取りも必要。</p>
佐藤委員	<p>この事業の3つのコンセプト(①子育て世代や学生など、多世代が共に住むことができること。②介護・医療サービス等が身近にあり相談ができること。③地域とつながることができること)のうち、③を実感できるのは、事業者ではなく、住んでいる人にしか分からないのではないかと。何をもち、地域と繋がったと言えるのかを評価するのは難しく、数字には表しづらい。</p>
和委員	<p>各委員の分野で評価指標がいろいろあるので、これらを組み合わせる方法も考えられる。</p>
中村委員	<p>地域とつながることとは、入居者が建物を利用する者と交流することをいうのか、それとも建物(空間)を地域に開放することをいうのか。</p>
大原委員	<p>地域とつながることが「できること」なので、建物が建った段階でそういう場(地域交流スペース等)が設けられていれば、当初の目標は達成されているのだと思う。しかし、地域と繋がるために、そのスペースをどのように活用しているのかが重要な点なので、そこから先へ行く評価(事業者に欠けている視点への指摘)を委員会で行いたい。</p>
関委員	<p>再開発事業のマンション建設等に関わる人や事業者も地域とつながること(人が交流すること)を考え、苦心している。行政として指針を出すなど、何かできればいいと思う。</p>
和委員	<p>今回は、事務局案(自己診断表とアンケート等)を基に、意見交換を行う。</p>
	<p>3 その他 特になし</p>
	以上